令和７年度　江戸川区立松江第五中学校　学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○よく学び、深く考えた行動のとれる生徒の育成 ○心身ともに健康で、思いやりの心をもった生徒の育成 ○責任を重んじ、自主性に富んだ生徒の育成		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	●「互いのよさを認め合い誰もが輝ける学校　～生徒も、教職員も保護者も地域も～」を築くことで、学校の教育目標を達成する。 ●「自ら考え、表現し、仲間とともに高め合える生徒、自ら課題を発見し、課題解決に向けて行動できる生徒、心と体の健康を大切にし、たくましく成長しようとする生徒）を育て、学校の教育目標を達成する。 ●「人権尊重の精神に富む教師、生徒や保護者や同僚からも信頼される教師、魅力あふれる授業を実践する教師、特別支援教育の理解に基づいた生徒指導をする教師、特別支援教育の理解に基づいた生徒指導をする教師」を目指し、学校の教育目標を達成する。
前年度までの本校の現状	成果	・一人一人の生徒のよさを生かした様々な活動の工夫により、主体的に行動する生徒が増加 ・学力調査で数学、英語、国語が東京都の平均を少し上回った。 ・不登校生徒支援としての校内別室指導室（たちばなルーム）を開設し、推進できた。	課題	・不登校生徒が多くなってきている。学校の求心力を高め不登校生徒をこれ以上出さない校内体制が必要である。また、教職員が連携先を知り、適切に案内できるようになる研修を行う。 ・特別な支援を要する生徒に対する指導体制として、外部機関との連携、そのあり方等、教職員の研修が急務である。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				９月	２月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	○授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実・	・引き続き区施策推進委員会を機能させ、業者による放課後補習教室を充実させる。	全国学力・学習状況調査で東京都の平均を上回ることを定着させる。	90		A	・全国学力学習状況調査では、東京都、江戸川区の平均を上回る結果を得た。	A	・学校公開の生徒が授業に取り組む雰囲気がとても問いと感じた。					
		・自宅や授業以外でのミライシード等の取り組み結果をたちばなマインドに報告することで家庭学習への意欲向上を図る。	生徒アンケート調査で「学校外でも主体的に学習している」肯定的回答を８５％以上にする。	70		B	・引き続き、検定等の結果や家庭学習の取り組みをたちばなマインドの報告する取り組みを継続する。	B	・家庭との連携を深められるよう学校評議委員もできる限り協力する。					
	○読書科の更なる充実	・YOMUワークシートを朝読書の時間に実施し、読解力の向上を図る。	読解力の分析で東京都の平均、区の平均を上回る。	80		B	・国語の思考判断表現では都、区の平均両方上回った。	B	・良い結果の持続を望む。					
体力向上	○個に応じた体力向上のための取り組みの実施・充実	・保健体育科教員、養護教諭、栄養士が連携し、体力向上を目指した生徒への啓発を推進する。	生徒アンケートで健康管理や体力づくりに励んだの肯定的回答７０％以上にする。	70		B	・保健体育科、養護教諭、栄養士が情報交換を行い連携している。	A	・熱中症や雷雨など天候不安定の中で大変だが、引き続き体力向上を頑張ってほしい。					
		・引き続き新体力テストで昨年度の記録を２段階UPイベントを５月から全校で実施する。	新体力テストで東京都の平均を上回る種目を８種目中４種目以上にする。	90		A	・運動会のダンスでは、生徒が自主的に踊っていて良かった。 ・結果が出次第確認する。	A	・引き続き頑張ってほしい。					
		・「たちばなマインド」への報告により、生徒の体力向上実績に応じた表彰を実施する	C.D層の割合を４割以下にする。	60		C	・たちばなマインドへの体力に関わる報告が少ないので、今後啓発する。	B	・たちばなマインドを通しての体力向上を引き続き見守る。					
共生社会の実現に向けた教育の推進	○誰一人取り残さない個に応じた指導の実施・充実	・校内特別支援委員会を中心とした人材活用とその連携を図る。	・毎週1回、特別支援専門員、巡回指導員、SSW、SC養護教諭、コーディネーター、各学年との打ち合わせを実施	90		A	・支援委員会は毎週行い、生徒に関わる有益な情報交換ができている。	B	・引き続き関係諸機関との連携の強固を望む。					
	○校内別室指導室（たちばなルーム）の活用促進	・教室に入れない生徒の居場所「たちばなルーム」の保護者への理解啓発を図る。	・引き続き、学校ホームページや学校だより等で活用方法について紹介する。 ・２学期以降、新たに登校できていない生徒をゼロにする。	70		B	・引き続き２学期以降の不登校出現を抑える。 ・たちばなルーム活用生徒が１名増えた。	B	・不登校問題はとても気になる。一人一人に寄り添いケアをする体制をぜひ整えてほしい。					
	○副籍交流、交流及び共同学習の実施充実	・年間指導計画に基づいた交流及び共同学習の実施する。	・各学期1回以上の実施する。	80		B	・間接交流は計画通り行うことができた。	B	・引き続き見守る。					
不登校・いじめ対応の充実	○豊かな心の育成	・人権教育に関する講演会を実施し法務省主催の全国中学生作文コンクールに全校で参加する。	・全校で人権作文に取り組み法務省に作品を提出する。	50		C	・人権作文への提出はできなかったが、道徳等の取り組みを通して豊かな心の育成を図る。	B	・教室や廊下の掲示物の充実を通して、生徒同士がお互いに認めあうことができている。					
	○教育相談体制の強化	・SC、SSWと連絡を密に取り合い常に情報共有をする。また、みらいサポート教室や共育プラザと連携を強化する。	・不登校生徒とのＳＣ、ＳＳＷとの連携率100%にする。	80		B	・SC、SSWとの連携は密になっている。引き続き100%を目指す。	B	・引き続き関係諸機関との連携の強固を望む。					
地域社会に開かれた学校（園）の実現	○学校ホームページの充実等 ○学校（園）公開の実施・充実	・校務支援員を活用したHP更新の充実を図る。 ・学校公開時の校内環境の工夫、改善を図る。	・HPを適宜更新し情報を発信する。 ・常時、校内に作品を展示していつ来校しても観賞できるよう環境を整美する。	80		B	・ホームページでは最低でも週１度は学校日記に掲載している。行事でも現在の様子がわかるよう掲載を多くしている。	A	・ホームページや学校だより、学年だよりを通して開かれた学校が実現できている。					
	○教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・保護者、学校評議員、地域の方々からのアンケート調査を実施し、その結果から教育活動の工夫・改善を図る。	・組織として改善を図る機会を９月と１月の２回設定する。 ・学校関係者評価の報告書をHPにて年に２度公表する。	70		B	・１０月に周年記念式典があるため、式典後にアンケート等を実施したい。	A	・授業公開では、教職員が教室まで入れるような声掛けがあり教室に入りやすい雰囲気をつくている。					
特色ある教育の展開	○誰もが輝ける特別活動の工夫と実践	・生徒の「たちばなマインド証」の発行とその活用	・生徒のたちばなマインド報告書の提出率を年度末に全校生徒の７０％以上になるようにする。	90		A	・多くの生徒が提出している。 ・２学期末での提出率を５０～６０％にしたい。	A	・たちばなマインドの活動については引き続き応援していく。					
	○教育情報の積極的な発信 ○開かれた学校づくり	・学校だよりは毎月、学年だよりは毎週、学校ＨＰで発信する。 ・連絡メールアプリの活用	・学校の情報を掲載、提供し、アンケート結果で保護者満足度を８５％以上にする。 ・保護者へ情報提供100%を目指す。	60		C	・毎月の学校だよりは発行している。HP掲載を失念するときがあったので確実に掲載する。	B	・中間までは開かれた学校づくりが実現できている。					
	○防災教育の充実	・江戸川区や地域、消防署と連携した防災訓練の実施 ・中学生が主体となる場面の設定	・避難訓練や防災訓練のアンケートから、防災について意識する生徒を９０％以上にする。	80		B	・毎月の避難訓練では、担当からの講話を大事に取り組んでいる。	B	・引き続き見守る。					
	○デジタル技術の活用	・GIGA端末を活用した校内研修や生徒や保護者とのオンラインによる情報伝達の教化 ・保護者への連絡メールアプリを介した情報収集	・生徒への重要伝達事項をTeams配信を活用して充実させる。 ・保護者アンケート調査は連絡メールをフル活用する。	90		A	・ICT活用では、授業または委員会や生徒会での生徒の活動で、十分活用している。 ・保護者連絡ツールtetoruを十分活用している。	A	・時代が変化していく中、大変だが、授業や指導で大きに活用することを望む。					